

□ ずいそう

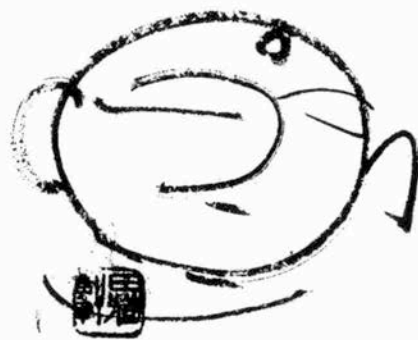
放屁雅談

永田 耕衣 △えと文△

△俳 人△

「莊子」の内篇に「大宗師篇」というのがある。その初めの方に、「何を真人しんじんと謂うや」と書き出されている真人論はいかにも神秘に聞こえるが、論理的である。「真人の息は踵かかとを以てし、衆人の息は喉のどを以てす」というのである。クビスで息をするというのは、今日の腹式呼吸であろう。妄想などで呼吸が不自然なとき、この手の息の仕方を試みると、横隔膜が下がって「其の息は深々たり」といった体境心境にめぐまれる。しかも臓物連はこの好機よろしく不用のガスを放出して、暫時放屁三昧の快を実感するのだ。この故を以て、古来の真人君子も、この生理必須の三昧境を、養生訓なみに受用していたことだろうと、素朴に親しく想像するわけである。

ところが、先日入手した「明治奇談」（清水谷漫歩著）を見ていたら、「路上に屁をして罰金七銭とられる」という珍妙な題文を発見した。「明



治六年二月、吉原京町喜勢長屋局つばねみせ見世の遣手やうて婆ばきよが亀井戸天神卯詣りの途中、押上の土手で思わず屁をしたのを邏卒に捕えられて罰金科料七銭にせられたということが当時の新聞に出ていたが、故意に人を侮蔑するために面前で屁をした場合は格別、あやまっての屁を罰する条文はない。もっとも不応為律という「なすべからざることをした」との罰則はあるが、放屁を不応為律に擬するのも無理だろう」というのがその全文だ。

私はある工場で夜勤を十年ばかりつとめたことがある。体躯は若かったが、この不自然さを調節するために、例のガスの催しがひんばんだった。同僚たちも全くこの例に漏れず、休憩時などお互いの放屁三昧は美事だった。一応は嫌うべきこの生理を、どうせ「通れ得ぬならば」というニヒリズムも発生して、相互に風狂を志した豪華な放屁合戦が、毎夜必ず現出した。それは「故意に

人を侮蔑」するにも似て、他者の前で堂々と演
出された。開放的なおかしさもここまでくると悪
趣味であつた。

昭和初期に大阪から出馬していた代議士、相島
虚吼翁は私の好きな俳人であつた。滑稽俳句を得
意としていた。「虚吼句集」を開くと、扉に自筆
の書蹟が印刷されている。それは「但看花開落
不言人是非」というアフォリズムで、いわば自然
法爾の世界を自戒的に理想としていたのだと思わ
れる。この人に、

放屁虫貯へもなく放ちけり

砂プと吹く趣や放屁虫

放屁虫ひるべきものをひりにけり

といった句々があるが、この「放屁虫」を「人
間」に代替すると、立派に自然法爾の境を満喫す
ることができよう。放屁虫のことはともあれ、人
間のこの三昧境を罰する手は、およそ天下のどこ
にもあり得ないと思われる。しかし、俳趣もこれ
くらいのところが恐らくヤマだと思ふのに、小林
一茶にはもっとひどいのがあるから、おかしさも
度を越えるのだ。

これもつい先日、こがれて高価な代を払って入
手した明治版の「滑稽俳句集」（佐藤洽六編）を
見ていたら、何ともアクの強い一茶の句を発見し
た。アクがつよいとはいつたが、人間、真人君子
をも無論ふくめて、この三昧世界を、半面開放的
によるこびおかしがる単俗性が、誰にもめぐまれ
ているのではあるまいか。その一句は、

屁くらべのやがて始まる布団哉

というのである。「また何をか言わんや」と妙に
会心の笑みを漏らしながら、一茶になおこの種の

句あらんかと探してみた。果して、
放屁虫爺が垣根としられけり

おれよりもはるか上手に放屁虫

虫の屁を指してわらふ仏かな

などが出てきた。やはり自然法爾の原点を法悦な
みに受用しているかと思われる。ところが人間に
はこの境に輪をかけた諧謔の精神が渦いして、ど
うやら演技的放屁三昧という放屁方法論が、片腹
いたくも生れるのだ。

私秘蔵の「見世物研究」（朝倉無声著）に花咲

男という男の「曲屁」の話が出ている。安永三年
頃江戸での話だ。その男は「中肉中背の揆鬢奴、
身には縹色の単衣に緋縮緬の襦袢を着てゐたが、
先づ最初は目出度三番叟屁を放りますと自ら口上
を述べ終るや、下座の囃子に合はせて、トッピーロ
トッピーロピッピーと拍子能く放る。次に東天紅
一番鶏の声をブ・ブウ・ブウの屁で髣髴たらしめ
其後で長唄や浄瑠璃に合はせて、調子能く鮮か放
りに分ける」云々というのだ。これは風来山人と
いう人の「放屁論」から抜粋された一節らしいが。

日本のある大詩人は、芭蕉の名句「菊の香や奈
良には古き仏達」を諧謔拈弄して、菊の花形を肛
門に擬し、奈良にオの字を付けて、その香を受用
するという酔狂談で一座を席捲、芭蕉を偉人と畏
敬する人たちの常識をやぶり、抱腹絶倒、自他の
身心を瞬時脱落せしめた。

放屁の本体は罪のない気体であるから、これは
虚空に合体するものだ。すなわち放屁三昧は自己
解消的な虚空三昧に通じる、と放言しても、単な
る戯論とはなるまい。これが私の雅論のオチであ
る。

□インタビュー□ 劇団四季「ヴェローナの恋人達」神戸公演の
 スータン〈真帆しぶき〉に聞く

夢をたべているような



劇団四季のミュージカル「ヴェローナの恋人たち」の
 神戸公演が、十月二十四日神戸国際会館で上演され、主
 演の元宝塚スターのスータンこと真帆しぶきさんが、終
 演後トアロードの「サントノール」に立ち寄ってジャン
 ソンを一曲ご披露。気さくなスータンにインタビュー。
 — 宝塚退団後の初出演はいかがですか。

「このミュージカルは、どの曲も素晴らしく楽しくて、ご
 気嫌ですね。細川俊之さんと私の二人がゲスト出演なん
 ですが、もうのびのびやらせてもらってるんです。

とにかく私は二十二年間宝塚にいましたので、もう、
 五年、十年、十五年の時期それぞれに、やれるところま
 でやったのでこれでいいし、また人間には次の欲望が湧
 いて来ますからね。宝塚で何より良かったのは鴨川清先
 生と「ビバボサノバ」「ハムレット」「ジャンゴ」などい
 い仕事ができたと。それにバ里公演でパディスト
 ンという演出・振付家に出会えたことですね。

宝塚のいいところは、家庭的でみんなが姉妹みたいで
 しょう。それに先輩、後輩のけじめがあることと、掃除
 洗濯など花嫁修業はばっちり。小林一三先生のしつけ
 の伝統がありますからね、これからどんなつらいことが
 あってもしんぼうできますね。

劇団四季との初仕事では、皆のプロ意識のはっきりし
 ていることに敬意を表します。どんな端役でも、二時間
 前から発声練習に、体操と基礎訓練をやっているし、毎
 日の公演も、みんなが輪になって、発声と体操。このプ
 ロ意識は立派ですよ。恥をかくのは自分だからやること
 だけはやらないと」

— 舞台でスータンのシルビアの芸のスケールの大きさ
 があるし、細川俊之さんののびやかな演技と二人が舞台
 をひきしめてますね。

「私の場合、宝塚の大きな舞台で育っているのでスケ
 ールがでてくるということもあるでしょうね。」



“ヴェローナの恋人達”の鹿賀丈史とシルビア姫の真帆しぶき

ね。」
——そういえば名和好子さんはいいものに出会おうとゾミゾミするとかって。
「私もいい場面に出会おうと鳥肌が立ちますね。なんでも夢中にさせる、見に来てよかったと感激する人間になりたい。一つの仕事をしても、結婚しても生きることへの意欲と感受性がとても大切だと思うの。でも私は舞台が好きなのね。ネムイナ、イヤダナと思っけていても、音楽とライトをあびるとその気になっちゃう。真底好きなんです。」

やはりミュージカルファンには楽しんで見てもらわないと、このヴェローナはその点フィナーレになるとお客さんが乗って手拍子ですごいんですよ。だからとっても嬉しい……。あのシルヴィア姫のファツツヨンは軍服スタイルの上半身にしたのも、ミンクの帽子をかぶったのも私のアイデアで、浅利慶太さんがスータンの好きな納得したのでやんなさいと言って下さったこともあって、鳥居ユキさんデザインを変えさせてもらったんですよ。そんなところ浅利さんはエライですね。」

——今後どんなものをお演りになりたいですか？

「これから演ってみたいのはミュージカル。それも女性だけど宇宙から来たんじゃないといわれるような。男か女かわからないスータンの魅力。一度ジャンヌ・ダルクをやろうと思っけています。」

先日リサイタルを開きましてね、演出の北先生と考えると、今迄の宝塚と一緒にダメ。といって男役の変身はムツカシイので、かえってその燕尾服の似合う男役のスタイルを一生やってやろうと思うんです。和田アキコも水前寺清子も男っぽいのが売りものではないでしょうか。夢をたべて生きているような中性の線ですね。女もやれるが男役もやって、男だっけてデビットポートなんかそんな

感じですよ。それでリサイタルのトップに、クレーンに乗ってもじゃもじゃ頭を水びたしにして出ることになったんですが、クレーンさがしが大変で日活、東宝、テレビ関係、消防局さがし歩いて、あるTV局で見つけたけれど東京から取り寄せる送料が凄いですよ(笑)。思いついたことをやらないとね。どっちもリサイタルは借金だし。このリサイタルでは始めて井上陽水のフォークを唄ったり、エマニエル夫人をコミカルに唄ったり……、イメージダウンにならないようにやっただけです。おかげ様で好評でリサイタルを見て、沖繩やソウエイエト公演をしてほしいといわれているので目下考慮中なんです。」

——スータンのショッピング好きは有名だけど(笑)

「そうなのよ、あのミンクの帽子もアンカレッジで見たの。5・6万円であーみつけた、買っちゃえエ。それで最後は借金よ(笑)。宝塚はお小遣いがきまってるので団長さんに拝みこんでなんとか……してエ。買い物魔だね。親(名和好子さん)と一緒にヨーロッパへ行くと両方買い魔だからますますひどくて、早く買った方が得(笑)。インスピレーションで買うのよ。だからバーゲンなんて大好き(笑)。宝塚はお給料が安いから、自分で考えてお金をかけないで創り出すのが上手よ。エルメスのスカーフ三枚買ってブラウス作るとかね。」



書家 望月美佐先生書

ことしの暮れも……

もとまち大丸西向い
(078) 321-1131(代)



住友信託銀行

経済ポケット ジャーナル



★「兵庫の総合繊維展」開催

10月29日から三日間、サンボーホール(暮合区)で「兵庫の総合繊維展」一フアツション基地化をめざす一が開かれた(主催/兵庫県繊維協議会、播州織振興対策協議会)。これは昨年



「兵庫の総合繊維展」のシンボルゾーン

開かれた「明日をひらく兵庫ファッションフェア」をさらに発展させたもので、播州織や但馬ちりめんなど兵庫県下の繊維業界から出石絹人絹織物協同組合など五団体、メーカー十七社が出品し、この種の規模

のフェアは初めての試みである。会場中央には播州織で構成したシンボルゾーンも設けられ、播州織や但馬ちりめんをはじめ、ブラウスやワンピースからハンカチやくつ下まで色とりどりの繊維製品が展示された。一方、29日午前11時から神戸商工会議所(神戸商工貿易センタービル内)で、

同展参加の業界側とKFAやKFCなど神戸ファッション側との座談会が行われた。これは西脇など県下の生地産地と神戸のファッション業界との交流を強めて行くための試みであり、約五十名が出席。畑専一郎神戸新聞主筆の司会で繊維業界のかかえる様々な問題が提出された。神戸のファッション業界からは川上勉KFA会長、中西省吾KFCリエーターズ会長、木口衛KFシテイ会長が出席した

★六甲大橋架設工事始まる

11月2日から六甲アイランド連絡橋の架設工事が始まった。これは現在造成中の六甲アイランドと臨海地区とを結ぶ橋で、全長四百米のダブルデッキ(二階建て構造)の斜張橋。完成すれば神戸大橋を上回る最大規模の橋となる。橋脚部分は昭和48年1月着工以来すでに完成しており来年六月には全体が完成する(総工費50億円)。ダブルデッキの上部は幅12・5米の三車線道路、下部は幅21・5米の三車線道路で両側に四米つ

つの歩道がつき、全体はクリムム色に塗られる。

★初の生協フェスティバル
10月26日、私立灘高校(東灘区)で灘神戸生協(本部・東灘区、那須重治組合長理事、組合員40万人、53

店舗)の「コープフェスティバル」が開かれた。同生協は来年、創立55周年を迎えるが、これを記念して催したものの。各地から約二万人が参加、家族づれも目立ち、体育館とグラウンドで多彩な催しが行われた。

また、午後からは同校講堂で「兵庫県生協大会」も開かれた。

★広畑経済同友会が受賞
11月2日、三田市民会館で本年度の「兵庫県文化賞」受賞者の表彰式が行われたが、このうち社会賞を広畑経済同友会が受賞した。

同同友会は昭和43年6月に結成され、以来、明るく豊かな町づくりを目的に活発な地域活動に取り組んでいる。代表金森守氏、姫路市広畑区東新町二の三二。

★KOBEOフィスレディ★



堀田 千鶴子さん(長田区)
柏井紙業株式会社仕入課

19歳の張切りレディ。高校時代にはプラスバンド部所属でフルートやアルトサックスを吹いていたそうだ。現在のはもっぱら聞く方に専念している。休みの日には友だちと三宮や梅田あたりの店をブラブラと見て歩いたり。この夏に仕事の内容が変わり仕入事務を担当、目下、仕事に追われている。暇になればぜひ北海道あたりへ旅行をしたいというのがささやかな夢なのだ。(須磨女子高卒)



ファッションは 日常生活の集積

浜野

安宏

△浜野商品研究所々長▽

新谷

琇紀

△彫刻家▽

高月

昭子

△建築家・計画工房DNA▽

伊藤

誠

△神戸新聞事業部々長▽

柴田

啓嗣

△柴田商事企画室々長▽

林

愛艶

△中央実業社長秘書▽

★ファッションは日常生活のなかから生まれる

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、「神戸らしさ」の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに色どり、楽しくしていくことは、まさに「文化開発」そのものではなからうか。

「ファッション都市・神戸」はそのような環境のなかで息づいている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は、ファッションがつくり出される環境とは何か、ということを諸外国の例をひきながら考え、それではファッション都市を目指す神戸はどうであるのか、を語る内容である。

浜野 私是最初、服飾関係の仕事をやっていたんですがそれだけやっていたはファッションがちつともよくならないのでファッションを総合的なライフスタイルとして私なりに把握ようになって来たんです。つまり、いい服やいい生活用品をつくり出す背景にはいい町がないといけない。だから、都市とファッションは非常に緊密な関係にあつて切り離せないということなんです。

我々はこうしたいんだ、こう住みたいんだという市民側のごく小さいな日常感覚的なものが集積されて初めて地域特性というか、面白くていい町が生まれて来るに違いない。企業とか行政が音頭取りをやっても市民に日常生活を面白い方向に変えて行こうという意識がない限りいい環境は生まれて来ない。だから官製のファッション都市じゃなくて、市民サイドのものでないとなかなかフ



浜野 安宏さん

アッシュヨンの生まれる環境は出て来ないと思いますね。

最近、割と若い世代の人たちが何かを始めることによってアッシュヨンのなストリートなり町なりが形成されて行くという傾向がみられるんですね。たとえば、原宿なんかまさにそうで、当所、若い人たちがささやかな店を何軒か開いていたのが、段々大きいスケールになって行ったんですね。ただ、そこで問題になるのは途中から大資本が介入して、それが大てい間違いを犯し、当所の面白さが全然なくなってしまう。大資本は資本の論理でどうしてもペイしなければなりませんから、大規模チェーンなどで独占してしまっ、せっかくよくなりかけたものがあると逆行してしまうようなところがあ。アッシュヨンは日常の産物であるということをまず基本にしないといけないし、アッシュヨンが生まれる日常というものを地方産業、地場産業がもっている、それ



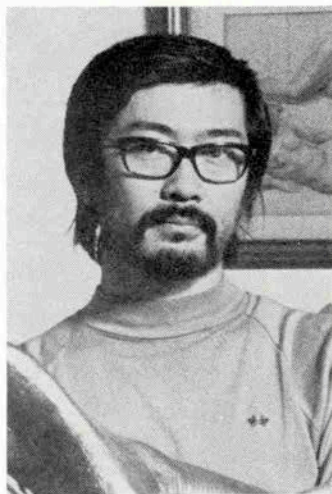
伊藤 誠さん

と同時に地元でいい服を着て個性ある生活をするような環境が生まれる日常がなかったらいけないと思います。今までの都市は非常にバラバラで、繁華街は繁華街、住宅街は住宅街、ビジネス街はビジネス街と分断してしまっその結果、生活が面白くなってしまっ、働く場所は働く場所でしかない、繁華街は繁華街でしかない、住宅街は住宅街でしかない。さらにそこにもっと悪い要素が出て来て異常な商業集積がおこり、町は極めて陳腐化し、段々人がいつかなくなるという悪循環を繰り返すんです。

そこで日常生活が営まれていること、単なるビジネス街じゃなくして都市生活のコンプレキシイがあるところに初めてアッシュヨンは生まれて来る。日常がそこにコンプレックスされ営まれている、ということがポイントで、生活がめっちゃくちゃにセグメントされてしまった町はまったくアッシュヨンの生まれる背景ではないです。伊藤 作家の五木寛之さんが神戸は女子学生がカーディガンを気軽にはおってさっそうと歩いてふさわしい町だという表現をしていたんです。これは神戸の一面をうまく表現した感じがしたんですが、新しいものを身につけてもいかにも最先端なんですよという取り入れ方じゃなくって、日常生活の何かが加って、スムーズに生活の中にとけ込ませるのに上手な町じゃないですか。

戦前、芸術家は大きいフランスを目指したんですが、必ず神戸から出て行ったというところで、美術運動の新しい発祥の地としてかなりの歴史をもっているんですね。そういう新しい流れを体得するには神戸は非常に便利な町だし、受け入れる要素も持っているんですね。そういう要素がありますから、アッシュヨンの都市としての環境は決して悪くはないですね。

新谷 西洋文化をいち早く理解するところからアッシュヨンの生まれてくるのじゃないかと思いますが、港町ということは神戸のユニークな利点ですね。たとえば映画ジャズ、ゴムの原料にしても港町ということでもまず神戸



新谷 瑠紀さん

に上陸して来た。

都市空間のデザイン云々と、まずその容器を中心に考えても、その中に住んでいる我々自身の生活の質・精神性が貧乏ければそれは役に立たなくなる。むしろ日常生活の味が充実してくれば自然に我々の環境も良くなるのではないのでしょうか……。

神戸のファッションは欧米文化即ち神戸の伝統になっている異人館当時の文化をいかに理解し、消化し、肉付けしてゆかかということ、つまりこのあたりも重要なポイントのように思われますがね。

ヨーロッパのよさは各国に個性があるところですね。イタリアにしても個性のある非常にファッションナブルな都市の集りだと思えます。ベニスならベニスの建物をみると、これは一見してベニスだと判るし、ボンペイにはボンペイの赤の色とかいうように各都市には強烈な個



柴田 啓嗣さん

性があるので、その町を訪れる人びとを楽しませてくれるのです。

イタリア人は、周囲の景色と合うかどうかということに非常によく検討しますね。町にモニュメントをおくにしても、壁画を画くにしても、店舗を改造するにしてもその周囲とブロックのかもしれない風景に合うかどうかを討議して決めて行くのです。そういうやり方だから都市の個性が保たれてくるのじゃないかと思えますね。そのへんをもっと学ぶべきじゃないですか。

高月 私を感じますのにファッションの新しい流れが生まれる町をつくり、その中で暮して行く市民の力強さをどんどん排除して行くような資本の論理が神戸でも生まれているようですね。今まで我々が過こして来た町角みみたいなものがどんどん失われる。そこには神戸としての町づくりの論理が全然無視されているか、逆に大資本と一緒にになってこれまでのいい町を破壊しているのじゃないかという恐れを感じるんです。大資本を抑ええるのは行政の仕事ですね。行政はサイクルとしては非常に長い目で都市をみたり、世界をみたり、またマクロな目で自分たちの町をとらえ、市民のための町をとらえるという姿勢が正確にもてなければ本当はいけません。神戸市の場合、都市づくりのバックボーンが本当にあるのだろうかという疑問を感じるんですけどね。

たとえば、栄町にしてもどんどんビルが建て変って今までのイメージが壊れていますね。新しい商社とか事務所がどんどん入って来て、終いには我々のようにそこで仕事をして何とかがいいものをつくって行きたいという感覚の人間は追い出されて行くのじゃないかという不安がありますね。高いビルを建ててそこにテナントを入れたら儲かるので容積いっぱい建てようという資本の論理が具体化して来ているのが三宮あたりですね。

柴田 日本の場合、ファッションが非常に国際化し過ぎまして、あらゆるところから入り過ぎていますね。だから逆に個性がない。向こうのコピーなんです。と



高月 昭子さん

ころがロンドンにしても町自体やファッションにも個性があるんですね。日本のように近代的なビルは少なくても赤れんがの建物とか全体にクラシックでファッションもそういうバックと合っているんですね。

日本の場合、色んな建物が多くて背景に合わせて何を着たいのか分らないところがあるんですね。その点神戸は地形にしてもファッションの生まれ出るいい環境があるんですね。また、神戸の場合、ファッションは衣食住と結びついて生まれて来ています。ただ、ロンドンなんかは非常に社交の場が多いわけです。ですからおしゃれな人は自然にそういうところへ集って来るし、パーティーもあらゆるところで開かれているんですが、神戸にはそれが少ないんですね。

★北野界隈をファッション街区に



林 愛艶さん

林 私 は昔から北野町に住んでいるんですが、神戸の特色は一言でいえば山と海なんですけど、もうひとついえば坂道だと思っんです。その坂道の上に何があるかといえど異人館があるわけです。今はただ異人館を保存することしか考えられてませんでしよう。保存することも大切なんですけど、北野町に新しいファッション界隈をつくらどうかということを考えているんです。まず私たちが住んでいる隣で小さなファッションビルを建てて、あのあたりをファッション界隈にしたらどうかということでも今それをやり始めているんです。

ものを買うということにしても今まではものをいっぱい面前につきつけられて、いわば穴倉の蛍光灯の下で買うという具合でしょう。それを人混みの中でぶつかり合いながらじゃなくて、空と緑の木に囲まれた自然の中でさっそうと歩いてものを買う、ものを買うプロセスを楽しむことをトータルライフということでもとらえて行くことが可能な場所は北野町しかないと思うんです。

浜野 神戸にはまだ山とか海とか自然が残っていて、若干、近代の初期に建てられた建物も残っている。それで何となく神戸のユニークさが保たれているのでしようがこれを単なる博物館的保存ではなくて、ポジティブな保存というか、たとえば異人館をそのまま生かしながら一つの界隈に変えて行くことが行われたいと思っんです。

日本では文明と文化との折衷が江戸時代以降なくなっってしまった。そこに問題があつて、文明か文化か、住宅街かビジネス街かという思想しかない。GNPが行きつまつたら次はこれだ式に一つのゴールしか目指せない。もっと多様な目標があつて、どれに向って進んでもそれを許容するようなところがないと豊かな都市生活はないと思っんです。

だから、ニューローカリズムといいますが、東京がダメなら名古屋があるさじゃなくて、積極的に名古屋であり切る、神戸であり切る、ローカルであり切る必要が重要な問題で、そこで必要なのは町に住んでいる人が

一人ひとり自分の玄関口をきれいにしたら町みんながよくなるという発想であって、それを繰り返して行くことがファッション都市神戸をつくり出して行く唯一のものだと思いますね。

伊藤 昔は元町、トーアロードなど町の中心部は神戸らしさをもっていたんですが、今や全然神戸らしさがないですね。北野町界隈にも他所の人を連れて行きにくい環境があるんですね。ファッション都市構想を打ち出して町中に彫刻をつくったりしているんですが、どうも本質的なものと余り関わりがないところでやっているような気がして性がないわけです。それよりか北野町界隈の環境をよりよくする方が早いわけですよ。

浜野 創造に主体性をもてば自然に人も集って来るし、ものも売れると思いますね。知識集約型とか創造性に富んだ産業や芸術なりが集積されて行くことが結果的には町も賑やかになって行くし、ユニークさも出て来ますね。

柴田 私は神戸は外から人を呼ばないとダメだと思いますね。ところが現状はホテル一つにしてもいいのが少ないんです。だから、昔屋、西宮など周囲に付帯した環境を生かさないといけないですね。残念ですが今のところは神戸だけを見てはダメなんです。

新谷 神戸がファッション都市として将来進むならば、もっと長期のプランでものごとを考えてみる必要があると思う。優秀なクリエイターを育成するアカデミーやインステュートのようなものが一つや二つないようではお話にならない。しかし神戸も最近になって割合に彫刻が多く見られるようになって来ましたね。いいことですね。色々と文句をいう人もいますけれど、昔の神戸と比べるとずい分と進歩したものです。

高月 都市の一定のスケールの中の需給のバランスの取り方をよっぽどしっかりしておかないと変なことになりますね。需給のバランスをしっかりとベースに持っていればその上で他所から呼んで来るお客と売り込む地元の洋服屋とか家具屋とかの能力を正確につかむ必要があり

ます。現状は、容積率と資本の論理ばかりで割り切っているところが見られますね。

★注目されている神戸の新しい動き

林 若者が自分でいいものを見つけてもそれを売り出せる場所がないでしょう。店を持ちたい気持ちがあっても大資本に独占されて持てる場所がない。そういう場所がつけられたら本当に面白いだろうし、新しいクリエイティブなファッションができると思います。

浜野 今までは難しいという言葉で片づけられたことをいや、もしかしたらベイするぞということで挑んでみたら意外と面白いものが出来るんですよ。今までこうでないとベイしないという定規をおき過ぎて来た。もっと創造的な財務計算をやって行かないといけない。どこかこれまでの商人の論理にやられていて、特に若い人や芸術家はそうかなあと不満のまま引き下っていたんですけど今の多様な社会ではこれまでのように猫も灼子も呼び寄せるような鳴りもの入りの繁華街は必要ないんですよ。

新谷 北野町のことに關しては神戸の伝統にやつと目を向けたのだ、人間生活の情緒化とクラシカルモダンを再現して行くのだという気がします。これはいいことでだし、それを徹底して行けばいいんですよ。

浜野 今、神戸が何をやり出すかをみんなが見守っているんですよ。だから、これこそ理想的な都市生活だと思っていたことが神戸から出かかって来たときに他の地方がそれを真似するなり拡がるなりして行くと思う。神戸はそういう大切な役割を持っている。

私は全国をとび歩いているんですが神戸に対する注目度は高いのに若い人に盛り上がりが見えないなあという感じですね。結局、ファッションとは何ぞやという理屈なんか全然いらなくて、自分たちの日常生活をもう少しキレイに楽しめようという気持ちの集積から本物のファッションが生まれて来るんですよ。

(レストランバーグにて)

ウシオ工業株

取締役社長 牛尾吉朗
神戸市葺合区浜辺通5丁目2の1
神戸商工貿易センタービル18F
TEL (078) 251-1651(代)

田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作
神戸市葺合区旗塚通6の3の10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株

取締役社長 川上勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡必三
神戸市生田区三宮町1丁目43番地
TEL (078) 331-3318

株ベニヤ

取締役社長 松谷富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 331-5585

モロゾフ株

取締役社長 葛野友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株

取締役社長 小泉進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル3F
TEL (078) 851-3191

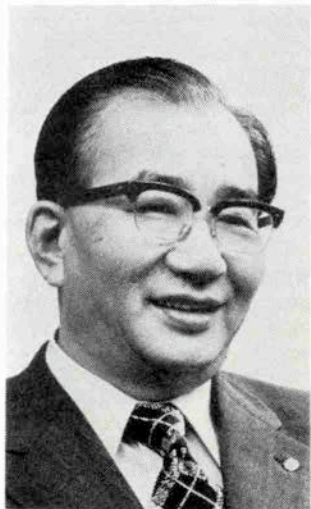
神戸地下街株

代表取締役 宮崎辰雄
神戸市生田区三宮町1丁目1
交通センタービル8F
TEL (078) 391-4024(代)



神戸の生活文化を全国に

中内 功 △ダイエー社長▽



★ライフスタイルを売る時代

最近ではファッションということを重視することは当然のことのようにいわれるようになってきている。

ファッションとは衣料とか雑貨に限られたものではない、ひとつのスタイルが大衆に認識されて、大衆がこれはいちということになるのがファッションになる。

歩くのも、食事をするのもすべての生活がファッションであるといわれている。

われわれはいまニュースタイル論つまりライフ・スタイルを追求しなければならないと考えている。ライフ・スタイルとは生活の切り方だという見方をしている。

つまり、ライフ・スタイルの差というのは切口の差だというように考えている。従来のように誰れかに左え習えをするようなファッションはもう存在しなくなる。

どんな生活がそこにあるのか、生活の切り方から生れる切り口を見せるのがビジネスなのである。

メーカーというのは、マーケティングによって、どんなものが売れるかというようなことを考えるわけだが、こんな考え方は一九三〇年代のマーケティング論である。メーカーでは、生産第一主義というか、ひとつの機械から技術から物が生れるそれをどのように商品化するかといった考え方が、いまでも横行しているといえる。

——物の思想は早く卒業しなければならぬ——
ライフ・スタイル論から見ると、売っているのは生活売っているのである。物を売るというのではない。

どのように生活売るかを考える。いろいろなライフ・スタイルがある。その生活を知って、そのニーズに合して売物考える。それはマーケティングから考える物売るというやり方とは全く次元の違う話である。

ライフ・スタイル論が進めると、ひとつの会社が生活の切り口を考え、それに応じた商品を提供する。つまり生活設計業でなければならぬ。

そこに新しい経営というものが生れてくるのである。これからの経営者の哲学にはライフ・スタイル論は不可欠の要件であり、生活売、ライフ・スタイルの切り口を決めるのがTOPの仕事である。

ファッションメーカーにしても、ヨーロッパから早くファッションをキヤッチして安く早く物を作って売る。アメリカやその他の国のファッションを翻訳して早く作る。そういった方法は全く意味がないといわねばならない。そういった体力的な方法ではなく、能力をつまみ哲学をもって企業活動に取組まねばならない時代である。

生活に対する考え方がないとどうにもならない、その切り口を決めるのが間違っておれば経営は失敗して会社

は潰れるのだから、しっかりとした哲学をもつべきである。とくに低成長の難かしい時代を乗り切る、というより、これが順当な成長かも知れないが、そのなかで新しい経営ということをよく考えるべきだと思う。

★ストーリーのある商品や店舗

ファッション時代のなかで大切なことは一味違うということである。新しいスタイルのもの、いままでなかったものという個性の問題を考えたい。例えば、単一商品品目限定店を専門店ということは出来ない。そこに特殊性を持つている。どこか違う、一味違う。違いがはっきり出せるそういった個性を持つているひとつの商品が生活のなかに生かされているものがある。それが専門店である。ファッション時代は消費者ではなく、生活者といいたい。生活者はスタイルをもっていることである。

生活者に対して生活設計を売るということになるだろう生活の切り口をはっきり見せる。かく考えるという、哲学をコンセプトを、ひとつの商品に関してストーリーを持ち、生活者にストーリーを語れる、語りかけてくる店なり商品でなければならぬ。

生活者のライフ・スタイルに応じた商品をつくり提供する。そこに生活者と共存共栄できるという哲学が生れる。そこに生活者と共存共栄できるという哲学が生れる。

新しい時代というのは、生産が消費を規制するというようなことを考えていては駄目になる。ファッションというものは、メーカーやデザイナーが操作してリードするというようなことは、生活者の論理が働けば、もうそんなことでは動かないということになる。

新しい時代はマーケットが先である。マーケットに対してセンターリングして行く、企業がマーケットの変化に対応するという方向が要求されるようになる。

生活者が自分の生活を買うというようになるという意識を持たなければならない。また、それは、創造性をもった商品、クリエイティブな商品が必要になってくる。

創造性があるということは、物語をもつということにも関わりをもつてくるものである。

例えば最近よくいはれている、ニューファミリーという層がある。

その層へのアプローチはどう考えるのか、やはり、その層のライフ・スタイルを確かめ、生活設計を売るということになる。

★神戸の生活文化は一味違う

神戸のファッション都市を考える場合、神戸の生活様式をしっかりと創っていくとすることでなければ、ファッションリーダーになれないということを知るべきだ。

神戸の市民の生活を基調にして、その生活文化を売っていく、神戸のライフスタイルを売るという方向でなければならぬ。東京と比較しても、上方には都市文化が生きづいていくわけである。

とくに神戸という街は進取の気性に富んでいて、断えず海外に眼を向けていた、港町である。いまもそのイメージはある。

しかし、それは神戸の先輩がもっていたスピリットである。いまそれがどうかどうか疑わしい。

神戸のファッションというのはいろいろな意味で、確かに可能性をもっている。

神戸という生活文化を背景にファッション神戸を全国で紹介し売って行くべきだ。そこに新しい生活設計、暮らし方の創造をめざし、生活をトータルに創りあげて行くことだ。

それは、神戸のファッションは風雪に耐えられるものであり、人間のためのファッションを神戸が創れるかどうかにかかっている。

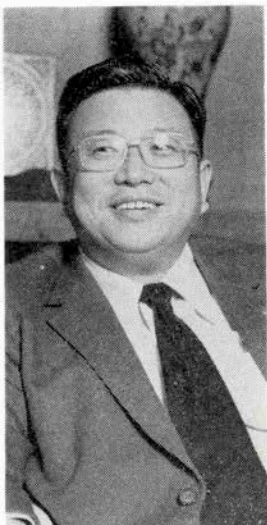
神戸がファッション都市として覇を唱えられるか、大阪の衛星都市にベッドタウンになりさがるかどうかの岐れ路である。大切な時期である。

(第三回ファッション市民大学講演より)

自主性のある大人の街に

馬場 茂明

△神戸大学教授・医学博士▽



馬場 私は神戸が非常に好きです。空気は良くて住み易く、いかなれば文化的な生活するには神戸の環境は最高ですね。だけどそういう状況になったというのは明治以来、神戸のその当時のファッションが神戸を築いて、今日の神戸になったのでしよう。神戸が明治に発展した背景というのは、土地があったこと、そしてある程度の人口があったこと、さらに港によって世界に拡っていたので比較的情報をうまくキャッチしたこと、そういうエネルギーが明治のニューファッションを作るエネルギーになったのですね。ところが、昭和の神戸では、人口は充分あり、そして百年とはいえどもある程度の伝統をもつことができていて、そういう点は非常にいいです。問題は土地ですね。

島田 立地的にも自然環境的にも山と海との神戸は非常に恵まれています。この自然を生かした都市づくりをすればいいですね。裏六甲には広い土地があるのだけけれど、問題は交通機関が充分でないことです。電車を縦横無尽に走らせて六甲の裏側にも土地を求めていくように

島田 文六

△島文工業株式会社 社長▽



する。山を利用して住宅地と商業地とに分けて、静かなところに家を建て、便利なところに工場を建てるというのが一つの方法ですが、最近そんな方向になっていますね。そして市街地の公害問題も激減し、海も空もきれいになってきていますね。これは努力していかないようで結構努力してきた結果ですよ。ただ公害防止を完全無欠にと要求しても困難な話ですから、企業と住民の相互理解がまず何より大切だと思いますね。

馬場 そういう開発の問題と同時に過密都市であるという問題ですね。ニューヨークでは街に入ってくる人には税金をとるらしいです。そして出ていく人からは取らない。ということは街の中に人が来ないようにしてニューヨークの街を守ろうとしているのでしよう。神戸のポータイランドも同じように中に入れば道路も好きなように使えるが、その橋を渡る時には税金を払う、というようにして、ポータイランドを神戸とは全く別の街にしようのいいと思いますね。

島田 税金といえれば財源の確保という問題もあって課税

対象を増やすことも必要でしょうが、また反面、工場の緑地化やファッション都市づくりには税金の面での優遇措置もお願いしたいと思えますね。そうすることに、既に地域の新しい街づくりもより一層スムーズに進むのではないのでしょうか。

馬場 ドイツも同じように公害で困っているのですが、今の住みにくいこの公害の街をどのようにするのかをドイツで聞いてみると、「我々は科学の進歩と産業革命によって発達したかわりに人類の生活に害を及ぼした。しかし、これを作ったのは科学だから、これを解決するのも科学である。」という返事だったのです。またニュージーランドの新聞に、二〇〇〇年までに完成するものとして、無音の飛行機、電力の原子力化、太陽の光を電力に変える、とかが載っていました。その時に思ったのですが、神戸の将来も科学的分野からの予想をたてなければいけないですね。文化的ということばを使う以上、ある程度科学的な生活も勉強しなければいけないと思います。国民性のちがいでしょ、そのあたりが日本人の感覚とはちがうようで、日本ではそういう議論があまり活発ではないですね。またオーストラリアでは住民の意識のなかに、自然も人間も常にいつでも作り変えることができるという精神が基本的にあるようです。つまり「都市も古くなってしまえばいいところへ移ればいい。いつでも作り変えることができる。人間社会も作り変えることができる」という感覚を持っているんですね。彼らは歴史的に、その土地に移り住み、自分たちの力で土地を開いたという自信があるのでしよう。そんなフロンティアの精神が次を考える日本のモデルではないかと感じました。

★静かな大人の街神戸になって欲しい

島田 きれいな街、公害のない街を作るなら、何もかも失くして全く何も無い街にすれば話は早いけれど、それは活気のないさびれた街であって、ファッション都市と

は程遠いものになってしまします。日本の場合、従来からある街を生かして、変えながら住み易くしていくような方向がいいでしょうね。

馬場 街をクリーンにするという点では、公害問題である程度のフイードバックがかかったために人間の生活を中心に考えだして、単にクリーンにするだけならかなりその方向へ進んでいますね。しかし、神戸の新しいファッションを創造する場合、神戸の特徴というのがないといけない。神戸っ子として住んでいて、神戸らしいクリーンさ、あるいは健全さ、神戸の生産性、というのがとび抜けていて欲しいというのが私の気持ちです。戦後、日本中何処の都市へ行っても、ここは金沢で、ここは京都で、という特色がだんだん少なくなっており、日本中同じような家が建っているわけですよ。建物だけでなく、日本中住み易くするためみんな努力していますが、非常に羨ましいなという都市にならないのですね。神戸がそんな街になるためには、神戸の自主性というのがないといけないですね。きょう大阪の地下鉄に乗ったのですが、すごい人混みですね。それに案内のスピーカーがなりたてる。「この電車は何々行です。次は何々駅です。発車します。お乗りの方はお早く」駅に着けば、「何々駅！」とにかく梅田に着くまでスピーカーが騒々しい。外国では電車が入ってきてても何処行きの電車であるとか、発車するので早く乗れとかのスピーカーの案内なんてないですよ。これは日本人の近代社会での生活様式が、いい言葉でいうと親切。いや親切すぎるのです。日本は親切ですよ。だけどこれぐらい騒々しい国もないですね。そして他人に頼りすぎる。つまり日本人に全く自主性がないのですよ。今の電車についていえば、案内があれば非常に便利だけれど、便利すぎるということは生活のうえに自主性がなくなってくるのですね。だから神戸に来るとこれは困ったなということになるかもしれないが、神戸らしい静かな大人の都市になって欲しいですね。

お歳暮は お菓子でごあいさつ

味のバラエティをセットした届月堂オリジナル
のご進物セット、数々取りそろえました。

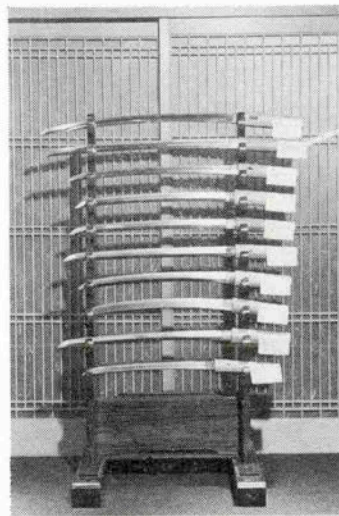


●カーネーション ￥3,000
(ゴーフル・パピロット・デセールショアジ・フキヨセ)

 神戸 届月堂

神戸市生田区元町通3丁目
ゴーフル
TEL 391-2412 321-5555

美術 骨董 古 刀剣 書画



脇差(在銘)
12萬~20萬円

鑑定 買入

刀剣研磨その他工作

一カ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 美 骨 劍 術 董
元 所 美 術
〒650 TEL078-351-0081